

# ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2017～2018年度 大宮西ロータリークラブ週報



創立：1963年3月22日  
例会場：パレスホテル大宮  
例会日：月曜日12:30～13:30

会長 高橋 秀樹  
幹事 染谷 義一  
公共イメージ向上委員長 石丸 主憲

第2528例会 2017/ 9/11  
発行日 2017/ 10/2  
週報当番 石丸 主憲

## 会長あいさつ

会長 高橋 秀樹

皆さんこんにちは。今年度の地区補助金事業は、「基本的教育と識字率向上月間」であるこの9月に、大宮ろう学園様に iPad を9台寄贈させていただくことにしています。



iPadは、8/30に納品し、9/5から授業で使われているそうです。本日はその贈呈式と卓話講師として大宮ろう学園の校長 伊藤えつ子様にお越しいただいております。本当にありがとうございます。又卓話もよろしくお願ひいたします。次回9/25の例会は、先週新藤栄介委員長よりご案内させていただいたとおり、大宮ろう学園様にお伺ひしてiPadを活用した授業を見学させていただく移動例会になっています。是非多くの方に出席していただきますようお願いいたします。

先週の例会時に配布されましたガバナー月信9月号のP10に清水ガバナー補佐執筆による「大宮西ロータリークラブの紹介」記事が掲載されていますので、是非お目通しいただきますようお願いいたします。

最後に、先週のガバナー公式訪問では会員の皆様にご協力いただきまして本当にありがとうございました。例会後のクラブ協議会も無事終了し、ガバナーも満足してお帰りになりました。その際、地区最大クラブに相応しい活動と5年後、10年後の将来に向けた組織作りに取り組んで欲しいとエールをいただきました。

本日の理事会にて新たに2名の方の入会が承認されました。これで会員数は118名となり、120名まで後2名となりました。

会員の皆様には引き続きクラブ運営と会員増強

にご理解、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## お客様ご紹介 田口修身 副会長

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園  
校長 伊藤えつ子先生

## 幹事報告

幹事 染谷義一



1. 大宮ろう学園、伊藤えつ子校長先生、本日の卓話宜しくお願ひ致します。
2. 4日に開催されましたガバナー公式訪問、ご出席を賜り大変ありがとうございました。
3. 10月27日(金)、地区職業奉仕部門セミナーのご参加を宜しくお願ひ致します。登録料7,000円の内、3,000円はクラブから補助させていただきます。
4. 11月11日、12日、地区大会がございます。当日は、ジャーナリストの櫻井よしこさんの基調講演もございます。多くのご参加をお願ひ致します。
5. 次回の例会は25日(月)、大宮ろう学園さんへお伺ひしての移動例会です。11時、大宮ろう学園さん2階会議室に集合となります。

## 委員長報告

地区補助金委員会  
委員長 新藤栄介



皆様、こんにちは。地区補助金委員会委員長の新藤栄介でございます。私から先週に引き続きお

ロータリー家族とともに行動し ともに感動する  
(55周年 全員で前進する ー 全・進 ー)

事務局：さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル 4F

TEL. 048-871-8881 FAX. 048-871-8882

E-mail: west@rc-omiya-west.com HP: http://rc-omiya-west.com/



願いです。会長からもお話しがありました通り、今月25日の大宮ろう学園さんの移動例会の出席を皆様をお願いしたいと思います。本日は伊藤校長先生にもお越し頂いております。当クラブからiPadを2学期に合わせて送らせて頂きました。実際にどのように活用されているのかを見学させて頂く移動例会です。重ねて皆様の出席をお願い致します。尚、次週18日が祝日の為、今週中に欠のご返事を事務局あてにお願い致します。

## 誕生祝 9月生まれ



親睦委員会

委員長 井上勝美

酒井一成(1日)、吉見 寛(1日)、上田謙二(2日)、瀬戸本一雄(5日)、多胡 彰(11日)、川村郁夫(12日)、大川正勝(13日)、鈴木庶夫(15日)、内山泰成(18日)、永井伸剛(18日)、新藤耕四郎(22日)、山田 修(25日)、坂本哲朗(25日)、藤池誠治(29日)、井上巨望(30日)、林 正(30日)、各会員



## ロータリーの友

公共イメージ向上委員会

副委員長 兒玉龍治



～横組みから～

■3ページ 国際ロータリー会長メッセージから。ロータリー国際大会の魅力について書かれています。最大の魅力は多様性であり、ロータリーを素晴らしいものにしていくと述べています。2018年ロータリー国際大会の開催地であるトロント(カナダ)では、280万人の住民の半分は他国の出身者で、140カ国語以上の言語が話されているそうです。まさに多様性そのものだと感じます。トロントについては20～31ページに詳しく書かれていますので、ご興味のある方はご一読ください。

■7ページ ロータリーの友月間から。ロータリーの友事務所が以前取材した地区大会で次のような発言を耳にしたそうです。「眠れないときに『友』を読むとすぐに眠れる」と。

『友』は、「内容が堅い」とか「興味とはかけ離れた別世界こと」のように感じられる記事が多いことは否めませんが、それこそが多様性であり、

共通点や違いなどに思いを巡らせながら読むと、新しい発見があるかも？と書かれています。10ページに、友事務所に多く寄せられる10の質問に対するQ&Aが書かれていますので一度お読みください。

因みに「友」の構成は、横組みが国際ロータリーからの情報、縦組みが日本国内の投稿となっているそうです。私はこのQ&Aを読むまで知りませんでした。

■14ページから、特集として「ようこそ日本へ」と題し、日本に住む外国人への支援について、能代RC、広島西南RC、秦野RCの活動が掲載されています。ここでも「多様性」を支えるロータリーの重要性を感じました。

■34ページからの「心は共に」のコーナーより。

日田中央RC会長より、7月におこった九州北部豪雨災害支援に対する感謝のお言葉が書かれています。また、36ページからは、東日本大震災における「ロータリー希望の風奨学金」の役割や実態・課題につき記載されています。

～縦組みから～

■4ページ 「いじめのない社会をめざして」と題し、息子さんを自殺で亡くされたご夫婦が設立したNPO法人の活動について書かれています。先ほどから申し上げている「多様性」を真っ向から否定し、「個性」を許さないものが「いじめ」だと思います。ここでは、「いじめ」の本当の原因について5ページにわたって詳しく書かれていますので、是非お読みください。

■9ページ 「クラブを訪ねて」のコーナーでは、「一騎当千の女性メンバーがひしめく」と題し、会員数49名中40名が女性という東京中央新RCが紹介されています。

■22ページ 「ロータリーアットワーク」のコーナー。会員数34名の小松東RC(石川県)では、長年ラオスの子供たちの教育環境向上に取り組んでおり、幼保園(認定こども園)の建設に携わっているそうです。10年前に卒園した現地の高校生が、「幼保園を建ててくれた日本に行ってみよう」と言っていることを知り、7月に2名を招待したという話が掲載されています。

## iPad 贈呈式

## お客様ご挨拶・ゲスト卓話

<目録：iPad 9台贈呈>

埼玉県立特別支援学校  
大宮ろう学園の伊藤えつ子  
校長(左)と高橋秀樹会長



## <卓話>

埼玉県立特別支援学校  
大宮ろう学園  
校長 伊藤えつ子 様



「日本語の習得・学力向上に向けてiPadを活用」

本日は、iPad 9 台寄贈の目録をいただきました。心から感謝申し上げます。iPadは8月30日にすでに学校に届いており、早速設定して活用を始めたところです。今回卓話の御指名をいただきましたので、本校の紹介やiPadの活用についてお話をさせていただきます。

本校は、創立94年目の伝統ある聾学校です。私は、平成28年4月に着任し、目指す学校像を、「保護者のニーズを引き出し、幼児児童生徒一人一人の発達段階や将来像に合わせた適切な指導により、地域の中で最大限能力を発揮し、グローバルに活躍できるよう支援する学校」と設定しました。なぜなら、子供たちに卒業後世界を股にかけ活躍してほしいという強い思いからです。

幼児児童生徒数は0歳児から20歳までの183名、子供たちは明るく素直で元気いっぱいです。183名というと小規模の学校だと思われるかもしれませんが、通常の学校に在籍する子供が増えたために、全国的に聾学校の在籍者数は減っており、本校は全国でも有数の大規模校です。集団での活動ができるので、スポーツ大会を行ったり、部活動を行ったり、子供同士で切磋琢磨できます。

聾学校ですので、子供たちには聴覚に障害があり、60dB以上の方が入学できることになっています。100dBを超える方が多数いる一方で人工内耳の手術をして聞こえ方が改善している方もいます。学校では手話でコミュニケーションをしており、授業では必ず手話を使って指導しています。しかしながら、将来社会に出ることを考え、手話だけでなく、筆談や口話等、何でも使ってコミュニケーションできるよう指導しています。

今年度特に力を入れているのが、日本語の習得です。地域で生活したり、就労したりするためには日本語の習得がとても大事で、すべての学習の基盤になっています。しかし、聞こえる子供なら言語は自然に獲得できますが、聾者は手話を使いながらなので、日本語の助詞の使い方等の習得がとても難しいです。学校だけではなく家庭の協力も得て指導することが必要です。

また、日本語の習得と深く関係がある学力向上にも力を入れています。少人数編成のグループで学習したり、先生方が子供の学習のつまづきを発見して支援したりします。また、ICT活用も効果を発揮します。

ICT活用に具体的にどんなメリットがあるかという点、①視聴覚に訴えることにより「わかる授業」が期待できます。また、②アクティブラーニング（調べ学習や子供同士で主体的に学習すること）に貢献します。さらに、③教師側のメリットとして授業の準備にかかる時間等の短縮が期待できます。

特に、ICTの中でもiPadを活用することで、多くの教育アプリやAirDropという転送機能により子供の意欲を高めたり、集中させたり、これまでにない学び方ができるだろうと思っています。

結びに、寄贈していただいたiPadを十分に活用することで、子供の日本語の習得、学力向上を一層図ってまいりたいと存じます。どうか今後も多大な御支援をいただけますようお願い申し上げます。

## ロータリーの目的

本日のリーダー：関根正也 会員

## 四つのテスト

本日のリーダー：小河原 豊 会員